

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-112915

(43)Date of publication of application : 02.05.1995

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

A61K 7/48

(21)Application number : 05-280626

(71)Applicant : KOSE CORP

(22)Date of filing : 14.10.1993

(72)Inventor : OKUYAMA MASAKI
MATSUEDA AKIRA**(54) WATER-BASED COSMETIC****(57)Abstract:**

PURPOSE: To obtain a readily usable water-based cosmetic, having a good feeling of use, good in extensibility and affinity for the skin and use characteristics such as smooth extension and excellent in makeup durability and further stability with time.

CONSTITUTION: This water-based cosmetic contains (A) 1-50wt.% powder treated with a silicone-based water repelling treatment agent and/or a fluorine-based water and oil repelling treatment agent, (B) 1-20wt.% lower alcohol, preferably ethanol, (C) 0.5-10wt.% acrylic acid-based emulsion polymer, preferably an anionic alkali thickening type, (D) 0.01-2.5wt.% alkaline agent and (E) 97.49-17.5wt.% water-based ingredient, e.g. glycerol, propylene glycol or water. Dimethylpolysiloxane, methylphenylpolysiloxane or methylhydrogenpolysiloxane is preferred as the water repelling treating agent and a perfluoroalkyl phosphate diethanolamine salt expressed by formula I or II [(n) is 6-18] is preferred as the water and oil repelling treatment agent.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination] 01.05.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 30.03.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3613713

[Date of registration] 12.11.2004

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2004-08951

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 30.04.2004

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

This Page Blank (uspto)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-112915

(43) 公開日 平成7年(1995)5月2日

| (51) Int.Cl. ⁸ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|---------------------------|------|--------|-----|--------|
| A 6 1 K 7/00 | M | | | |
| | B | | | |
| | C | | | |
| | J | | | |
| 7/48 | | | | |

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平5-280626

(22) 出願日 平成5年(1993)10月14日

(71) 出願人 000145862

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72) 発明者 奥山 雅樹

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

(72) 発明者 松枝 明

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究所内

(54) 【発明の名称】 水系化粧料

(57) 【要約】

【構成】 (a) シリコン系撥水处理粉体及び/またはフッ素系撥水・撥油処理粉体 1~50重量%、
(b) 低級アルコール 1~20重量%、(c) アクリル酸系エマルジョンポリマー 0.5~10重量%、
(d) アルカリ剤 0.01~2.5重量%、(e) 水性成分 97.49~17.5重量%を含有する水系化粧料。

【効果】 本発明の水系化粧料は、使用が簡便で、清涼感、さっぱり感、しっとり感等の良好な使用感を有し、また皮膚への展延性、親和性が良好で、なめらかにのび、しかも化粧持続性に優れる等の使用特性を有し、経時安定性にも優れたものである。

【特許請求の範囲】

* (d) 及び (e) :

【請求項 1】 次の成分 (a)、(b)、(c)、 *

(a) シリコン系撥水处理粉体及び/またはフッ素系撥水・撥油処理粉体

1 ~ 50 重量%

(b) 低級アルコール

1 ~ 20 重量%

(c) アクリル酸系エマルジョンポリマー

0.5 ~ 10 重量%

(d) アルカリ剤

0.01 ~ 2.5 重量%

(e) 水性成分

97.49 ~ 17.5 重量%

を含有する水系化粧料。

※ 粉体をメチルヒドロジェンポリシロキサンで処理した

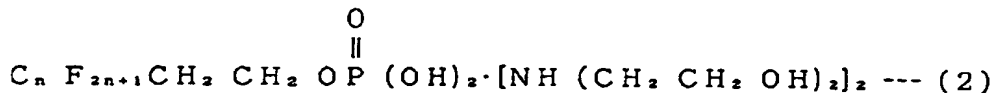
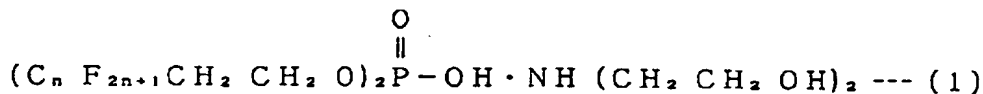
【請求項 2】 成分 (a) を成分 (b) で予め濡らした 10 ものである請求項 1 または 2 記載の水系化粧料。

後、成分 (c)、(d)、(e) に分散することにより得られ、一層であることを特徴とする請求項 1 記載の水系化粧料。

【請求項 4】 フッ素系撥水・撥油処理粉体が、化粧料用粉体を次の一般式 (1) または (2)

【化 1】

【請求項 3】 シリコン系撥水处理粉体が、化粧料用※



(式中、n は 6 ~ 18 の整数を示す)

で表されるパーフルオロアルキルリン酸エステルジェタノールアミン塩で処理したものである請求項 1、2 または 3 記載の水系化粧料。

【請求項 5】 アクリル酸系エマルジョンポリマーが、アニオン性アルカリ増粘型であることを特徴とする請求項 1、2、3 または 4 記載の水系化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は粉体を含有し、油剤や界面活性剤を含まない水系化粧料において、使用感がよく、耐水性、耐汗性に優れ、皮膚刺激がなく、かつ経時安定性の良好な化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、粉体と水とを含む化粧料として古くは水白粉などが用いられてきた。このタイプの化粧料は多量の水を含んでいるため、清涼感があり、さっぱりとした使用感を有するが、通常、水、粉体、保湿剤等からなり油分が配合されていないため、化粧をする際、なめらかさに欠け、仕上がりが粉っぽかったり、経時での化粧持ちや耐水性、耐汗性が著しく悪いという欠点があった。また、静置時には水と粉体との二層に分離しており、使用する際に振とうして使う必要性があり、均一な化粧をしづらいものであった。また、粉体としては一般

にタルク、カオリン、マイカ、などの体質顔料が用いられるが、皮脂による色沈みが生じたりするために多量の配合が困難であった。また、化粧崩れの原因として汗や水などの水性成分が目され、かかる化粧崩れを防止するため、表面を金属石鹸、脂肪酸、リン脂質、シリコン油などで処理した粉体の配合が行われてきた。しかし、これらの表面処理粉体を配合した化粧料は、皮脂等の油性成分による化粧崩れを防止することはできなかった。さらに、これらの粉体を水系に均一分散する手段として、機械力により強制的に分散させるか、あるいは界面活性剤を多量に配合し分散させる方法が行われてきたが、こうして得られた化粧料は皮膚に対する刺激性や経時での化粧持ちの悪化という問題があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上記の欠点を改良する方法として、油分を配合することが考えられるが、水系に単純に油分を配合すれば上部に油層ができてしまい、均一な乳液状にならないので使用感の一定なものが得られない。そこで粉体に油分を配合（特公平 2-3768 号公報）することも考えられたが、これは、粉体層と水層からなる二層型のものであった。また、使用時のなめらかさを演出するために、水溶性高分子等を配合し、系を均一にする方法も考えられるが、この方法では化粧膜

の耐油性が低下したり、あるいは粉体の凝集にともなう経時安定性の悪さや、きめの悪さ、化粧崩れによる汚さがめだち、化粧の持続性が悪化するという問題があった。従って、本発明の目的は、使用が簡便であり、使用時の感触が良好で、化粧持続性に優れ、さらに経時安定性が良好な水系化粧料を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】そこで、本発明者らは上記課題を解決すべく鋭意研究した結果、特定量のシリコーン系撥水处理粉体及び／またはフッ素系撥水・撥油処

(a) シリコーン系撥水处理粉体及び／またはフッ素系撥水・撥油処理粉体

1～50重量%

(b) 低級アルコール

1～20重量%

(c) アクリル酸系エマルジョンポリマー

0.5～10重量%

(d) アルカリ剤

0.01～2.5重量%

(e) 水性成分

97.49～17.5重量%

を含有する化粧料を提供するものである。

【0006】本発明に用いられるシリコーン系撥水处理粉体(a)(以下、撥水处理粉体と略す)は、通常化粧料に用いられる粉体をシリコーン系撥水处理剤(以下、20 撥水处理剤と略す)で表面処理することにより得られるものである。

【0007】本発明に用いられるフッ素系撥水・撥油処理粉体(a)(以下、撥水・撥油処理粉体と略す)は、通常化粧料に用いられる粉体をフッ素系撥水・撥油処理剤(以下、撥水・撥油処理剤と略す)で表面処理することにより得られるものである。

【0008】撥水处理粉体、及び撥水・撥油処理粉体に用いられる粉体としては、化粧料一般に用いられるもの、例えば、体質顔料、白色顔料、有色顔料、有機粉 30 末、パール剤等が使用可能である。具体的には、タルク、カオリン、マイカ、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ベントナイト、無水ケイ酸、ケイ酸アンモニウム※

* 理粉体と低級アルコールを、アクリル酸系エマルジョンポリマーとアルカリ剤とで増粘させた水性成分に分散することで、前記目的を達成する化粧料が得られることを知見した。さらに、撥水及び撥水・撥油処理した粉体は水系に混合あるいは分散するためには、通常機械力により行っていたが、これを予め低級アルコールで濡らすことにより、水系への分散を容易に行えることを見だし、本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち、本発明は次の成分(a)、(b)、(c)、(d)および(e)：

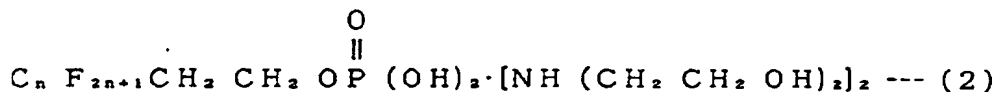
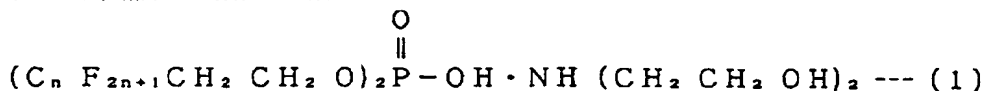
※ マグネシウム、酸化チタン、亜鉛華、ベンガラ、黄酸化鉄、ナイロン末、シルクパウダー、雲母チタン等があげられ、これらは特に限定されるものではなく、必要に応じて、1種または2種以上を組み合わせ用いられる。又、これらの粉体は予め油剤処理したものも使用することができる。

【0009】撥水处理剤としては、特に限定されないが、好ましくはメチルヒドロジェンポリシロキサンが使用でき、かかる撥水处理剤は、例えばKF-99-P(信越化学(株)製)、SH1107C(トーレ・シリコーン(株)製)として市販されているものを使用することができる。

【0010】撥水・撥油処理剤としては、特に限定されないが例えば次の一般式(1)または(2)

【0011】

【化2】



(式中、nは6～18の整数を示す)

【0012】で表され、かかる撥水・撥油処理剤は、例えばアサヒガードAG530(旭硝子(株)製)として市販されているものを使用することができる。

【0013】撥水处理粉体は、粉体表面を撥水处理剤に 50

て処理することにより得られるもので、具体的には粉体の1種または2種以上の混合物と処理剤とを混合するか、粉体に処理剤を噴霧すること及びさらに必要によりこれらの方法により得られた処理粉体を加熱または焼付

け処理すること等、通常行われる方法により実施される。

【0014】撥水・撥油処理粉体は、例えば粉体の1種または2種以上の混合物に水を加えてスラリー状態とし、一方撥水・撥油処理剤に水を加えて攪拌し0.1～5重量%（以下単に「%」で示す）のエマルジョン状態としたものを、前記スラリーに徐々に注入・混合した後酸性とし、常温または高温静置等によってエマルジョンを破壊して粉体の表面を撥水・撥油処理剤の連続層で被覆させ、次いで洗浄・濾過、乾燥することにより製造される。処理時の粉体の濃度は特に制限されないが、例えば5～20%の比較的高濃度でも十分に攪拌混合が可能であり、小型装置で大量処理が可能である。また、撥水・撥油処理剤は、粉体に対して0.1～10%、特に0.5～5%用いるのが好ましい。尚、これらの処理は10～35℃の大気下で行うことができる。

【0015】本発明に用いられる、撥水处理粉体及び／または撥水・撥油処理粉体（a）の配合量は1～50%が好ましく、この範囲で用いれば、使用性、使用感に優れ、撥水处理粉体及び／または撥水・撥油処理粉体の特徴であるのびのなめらかさや肌への付着性、化粧膜の持続性が良好となる。

【0016】本発明に用いられる低級アルコール（b）としては、メタノール、エタノール、イソプロパノール等が挙げられるが、エタノールが特に好ましい。本発明における低級アルコールの配合量は1～20%が好ましい。低級アルコールを用いない場合は、清涼感、さっぱり感が得られない。

【0017】本発明に用いられるアクリル酸系エマルジョンポリマー（c）としては、好ましくは、アニオン性アルカリ増粘型エマルジョンポリマーを使用することができ、通常のアクリル酸・メタアクリル酸重合体、共重合体のものおよびアクリル重合体を一部架橋したもの、例えば、アクリル酸、メタアクリル酸のホモポリマーエマルジョン、コポリマーエマルジョン、またはアクリル酸、メタアクリル酸ポリマー及びその塩等が挙げられる。これらの配合量は、通常化粧料に使用される量であって、特に限定されず、他の成分との関係、また、感触及び粘性調整の目的等で決められるが、アクリル酸系エマルジョンポリマー（固形分30%）の場合0.5～10%（固形分としては、0.15～3%）であり、好ましくは1～3%（固形分としては0.3～0.9%）である。

【0018】本発明に用いられるアルカリ剤（d）とし

ては、特に制限されるものではなく、通常化粧料に使用されるものであれば、そのいずれのものも使用することができる。例えば、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム等の無機アルカリ剤、L-アルギニン等の塩基性アミノ酸、トリエタノールアミン等のアミン類、アンモニア等が挙げられる。アルカリ剤の添加量はその種類によって異なり、特に限定されるものではなく、アクリル酸系増粘剤の種類、量によって決定すればよいが、好ましくは0.01～2.5%である。このアルカリ剤は、予め水に溶解することで、あるいは直接ポリマーと混合して添加できる。

【0019】本発明に用いられる水性成分（e）としては、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、水等があげられ、配合量としては30～90%が好ましい。

【0020】本発明の化粧料には本発明の効果を妨げない範囲で従来の液状化粧料に使用される粉体、保湿剤（例えばポリエチレングリコール等）、香料、防腐剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、粘液質等を添加することができる。ただし、化粧膜の持続性、皮膚刺激性の観点から通常の油性成分や界面活性剤は配合しないことが望ましい。

【0021】本発明の水系化粧料は、成分（a）、（b）、（c）、（d）、（e）及び任意成分を均一に混合したもの、すなわち、アクリル酸系エマルジョンポリマーにて増粘した水系中に撥水处理粉体及び／または撥水・撥油処理粉体を分散せしめることにより得られるが、撥水处理粉体及び／または撥水・撥油処理粉体を水系に分散する前に予め低級アルコールの全部または一部でよく濡らしておけば、これらの粉体の分散性が極めて向上し、製造上の効率化が図れると共に、経時安定性が向上する。本発明の水系化粧料は、ファンデーション、頬紅、アイシャドウ等のメイクアップ化粧料に限らず、基礎化粧料等にも適用することができる。

【0022】

【実施例】以下に実施例を挙げて更に説明する。なお、これらは本発明を何ら限定するものではない。

【0023】実施例1～3および比較例1～3

表1に示す処方の化粧料を調製し、使用時及び使用後の使用感、化粧料の持続性について官能評価を行った。その結果を表2に示す。なお、実施例1、2、3及び比較例1、2、3はファンデーションである。

【0024】

【表1】

10

20

30

40

(%)

| (組成) | 実施例 | | | 比較例 | | |
|---------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| (1) 撥水处理(2%)酸化チタン (注1) | 5 | - | 5 | - | - | - |
| (2) 撥水处理(2%)マイカ (注1) | 5 | - | 8 | - | - | - |
| (3) 撥水处理(2%)タルク (注1) | 5 | - | 8 | - | - | - |
| (4) 撥水・撥油処理(5%)酸化チタン (注2) | - | 5 | 5 | 5 | - | 15 |
| (5) 撥水・撥油処理(5%)マイカ (注2) | - | 5 | 10 | 5 | - | 25 |
| (6) 撥水・撥油処理(5%)タルク (注2) | - | 5 | 10 | 5 | - | 20 |
| (7) 撥水・撥油処理(5%)顔料 (注2) | 1 | 1 | 2 | 1 | - | 3 |
| (8) 酸化チタン | - | - | - | - | 5 | - |
| (9) マイカ | - | - | - | - | 5 | - |
| (10) タルク | - | - | - | - | 5 | - |
| (11) 顔料 | - | - | - | - | 1 | 2 |
| (12) メチルフェニルポリシロキサン | - | - | - | - | 5 | - |
| (13) エチルアルコール | 4 | 4 | 12 | 4 | 4 | 12 |
| (14) アクリル酸系エマルションポリマー | 2 | 2 | 2 | - | - | 2 |
| (15) カルボキシメチルセルロース | - | - | - | 0.2 | - | - |
| (16) トリエタノールアミン | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | - | 0.3 |
| (17) 1, 3-ブチレングリコール | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| (18) 香料 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| (19) 防腐剤 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 |
| (20) 水 | 残量 | 残量 | 残量 | 残量 | 残量 | 残量 |

(注1) 撥水处理剤としてKF-99-P使用

(注2) 撥水・撥油処理剤としてアサヒガードAG530使用

【0025】(製法)

- A. (1)～(11)を混合粉碎する。
 B. Aに(12)及び(13)を添加後、充分混合攪拌して、均一にする。
 C. (14)～(20)を混合溶解し、攪拌しながら、Bを加え、均一に分散する。
 D. Cを容器に充填して製品とする。

【0026】(評価方法) 10名の官能パネルにより下記の7段階(0～6)の絶対評価を行い、その平均点をさらに4段階に分けて評価した。

(1) 絶対評価

6: 非常に良い

5: 良い

40 4: やや良い

3: 普通

2: やや悪い

1: 悪い

0: 非常に悪い

(2) 4段階評価

5. 0～6. 0: 非常に良好: ◎

3. 0～4. 9: 良好: ○

1. 0～2. 9: やや不良: △

0 ～0. 9: 不良: ×

50 【0027】

【表2】

| (評価) | 実施例 | | | 比較例 | | |
|------------|-----|---|---|-----|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| (使用時及び使用中) | | | | | | |
| 使用の簡便さ | ◎ | ◎ | ◎ | △ | △ | ○ |
| みずみずしさ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | △ | × |
| 付着性 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | △ |
| 油っぽさのなさ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ |
| のびのなめらかさ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | × |
| (使用后) | | | | | | |
| 粉っぽさのなさ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | × |
| べたつきのなさ | ◎ | ◎ | ◎ | △ | △ | ◎ |
| さっぱり感 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | △ | △ |
| 化粧膜の持続性 | ○ | ◎ | ◎ | △ | △ | × |

【0028】表2の結果から明らかなように、本発明品である実施例1～3の水系化粧料は、比較例1～3の水系化粧料に比較して、使用感、使用性面で、はるかに優れた特性を有していることが分かる。特に、本発明品は、二層タイプでないため使用時に振とうする必要がなく使用が簡便であり、のびもなめらかで、付着性も良好である。又、使用後の仕上がりも粉っぽさがなくかつべ

* 上、経時での化粧膜がくずれにくく、しっかりとした化粧膜を付与するものである。一方、水溶性高分子を配合した比較例1では、経時での粉体の凝集を生じ、安定性が悪く経時により使用性の変化が見られた。又、油性物質を配合した比較例2では、経時での油うきが観察された。比較例3についても使用時の評価において満足するものは得られなかった。

【0029】

実施例4 (白粉)

(処方)

| | (%) |
|------------------------|------|
| (1) 撥水处理(2%)マイカ(注1) | 5.0 |
| (2) 撥水处理(2%)タルク(注1) | 5.0 |
| (3) 撥水・撥油処理(5%)マイカ(注2) | 10.0 |
| (4) 撥水・撥油処理(5%)タルク(注2) | 10.0 |
| (5) 撥水・撥油処理(5%)顔料(注2) | 0.5 |
| (6) エチルアルコール | 8.0 |
| (7) アクリル酸系エマルションポリマー | 2.0 |
| (8) トリエタノールアミン | 0.3 |
| (9) 1,3-ブチレングリコール | 12.0 |
| (10) 香料 | 0.1 |
| (11) 防腐剤 | 適量 |
| (12) 水 | 残量 |

(注1) 撥水处理剤としてKF-99-P使用

(注2) 撥水・撥油処理剤としてアサヒガードAG530使用

【0030】(製法)

A. (1)～(5)を混合粉碎する

B. Aに(6)を添加後、充分混合攪拌して、均一にする。

C. (7)～(12)を混合溶解し、攪拌しながら、B

を加え、均一に分散する。

*【0031】

D. Cを容器に充填して製品とする。

*

実施例5 (ホホ紅)

| (処方) | (%) |
|--------------------------|------|
| (1) 撥水处理(2%)タルク(注1) | 1.0 |
| (2) 撥水处理(2%)マイカ(注1) | 1.0 |
| (3) 撥水・撥油処理(5%)タルク(注2) | 5.0 |
| (4) 撥水・撥油処理(5%)マイカ(注2) | 5.0 |
| (5) 撥水・撥油処理(5%)雲母チタン(注2) | 3.5 |
| (6) 撥水・撥油処理(5%)酸化チタン(注2) | 2.0 |
| (7) 撥水・撥油処理(5%)顔料(注2) | 0.5 |
| (8) エチルアルコール | 5.0 |
| (9) アクリル酸系エマルションポリマー | 2.0 |
| (10) トリエタノールアミン | 0.3 |
| (11) 1,3-ブチレングリコール | 15.0 |
| (12) 香料 | 0.1 |
| (13) 防腐剤 | 適量 |
| (14) 水 | 残量 |

(注1) 撥水处理剤としてKF-99-P使用

※【0033】上記実施例4、5については、実施例1～3と同様に、使用感、使用性において、優れた特性を有するものが得られた。

(注2) 撥水・撥油処理剤としてアサヒガードAG530使用

【0032】(製法)

A. (1)～(7)を混合粉碎する。

B. Aに(8)を添加後、充分混合攪拌して、均一にする

C. (9)～(14)を混合溶解し、攪拌しながら、Bを加え、均一に分散する。

D. Cを容器に充填して製品とする。

※

【0034】

【発明の効果】本発明の水系化粧料は、使用が簡便で、清涼感、さっぱり感、しっとり感等の良好な使用感を有し、また皮膚への展延性、親和性が良好で、なめらかにのび、しかも化粧持続性に優れる等の使用特性を有し、経時安定性にも優れるものである。

【手続補正書】

【提出日】平成6年8月8日

★【補正内容】

【手続補正1】

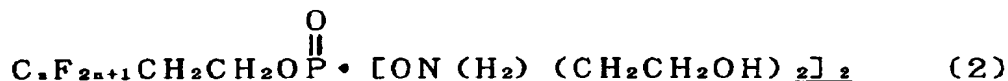
【請求項4】 フッ素系撥水・撥油処理粉体が、化粧料用粉体を次の一般式(1)または(2)

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

★



で表されるパーフルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩で処理したものである請求項1、2または3記載の水系化粧料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】撥水处理剤としては、特に限定されないが、好ましくはジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン等のシリコーン油、メチルヒドロジェンポリシロキサンが使用でき、かかる撥水处理剤は、ジメチルポリシロキサンとしてはKF-96A(信越化学(株)製)、SH200C(トーレ・シリコーン(株)製)、メチルフェニルポリシロキサンとしてはKF-56(信越化学(株)製)、メチルヒドロジェン

ポリシロキサンとしてはKF-99-P(信越化学(株)製)、SH1107C(トーレ・シリコーン(株)製)として市販されているものを使用することができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

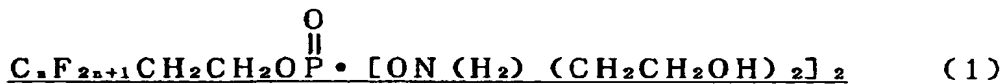
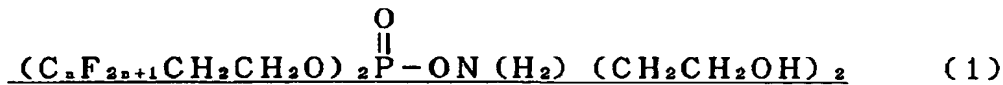
*

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正内容】

【0011】



【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正内容】

【0017】本発明に用いられるアクリル酸系エマルションポリマー(c)としては、好ましくは、アニオン性アルカリ増粘型エマルションポリマーを使用することができ、通常のアクリル酸・メタアクリル酸重合体、共重合体、アクリル酸アルキルエステルの重合体、共重合体およびアクリル重合体を一部架橋したもの、例えば、アクリル酸、メタアクリル酸のホモポリマーエマルション、コポリマーエマルション、またはアクリル酸、メタ※

※アクリル酸ポリマー及びその塩等が挙げられる。これらの配合量は、通常化粧料に使用される量であって、特に限定されず、他の成分との関係、また、感触及び粘性調整の目的等で決められるが、アクリル酸系エマルションポリマー(固形分30%)の場合0.5~10%(固形分としては、0.15~3%)であり、好ましくは1~3%(固形分としては0.3~0.9%)である。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正内容】

【0029】

実施例4 (白粉)

| (処方) | (%) |
|--------------------------|------|
| (1) 撥水处理(2%)マイカ(注1) | 5.0 |
| (2) 撥水处理(2%)タルク(注1) | 5.0 |
| (3) 撥水・撥油処理(5%)マイカ(注2) | 10.0 |
| (4) 撥水・撥油処理(5%)タルク(注2) | 10.0 |
| (5) 撥水・撥油処理(5%)顔料(注2) | 0.5 |
| (6) エチルアルコール | 8.0 |
| (7) アクリル酸系エマルションポリマー(注3) | 2.0 |
| (8) トリエタノールアミン | 0.3 |
| (9) 1,3-ブチレングリコール | 12.0 |
| (10) 香料 | 0.1 |
| (11) 防腐剤 | 適量 |
| (12) 水 | 残量 |

(注1) 撥水处理剤としてKF-99-P使用

(注2) 撥水・撥油処理剤としてアサヒガードAG530使用

(注3) ビニブラン2540K(日信化学工業社製)

【手続補正6】

★

★【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正内容】

【0031】

実施例5 (ホホ紅)

| (処方) | (%) |
|------------------------|-----|
| (1) 撥水处理(2%)タルク(注1) | 1.0 |
| (2) 撥水处理(2%)マイカ(注1) | 1.0 |
| (3) 撥水・撥油処理(5%)タルク(注2) | 5.0 |
| (4) 撥水・撥油処理(5%)マイカ(注2) | 5.0 |

| | |
|--------------------------|------|
| (5) 撥水・撥油処理(5%)雲母チタン(注2) | 3.5 |
| (6) 撥水・撥油処理(5%)酸化チタン(注2) | 2.0 |
| (7) 撥水・撥油処理(5%)顔料(注2) | 0.5 |
| (8) エチルアルコール | 5.0 |
| (9) アクリル酸系エマルションポリマー(注3) | 2.0 |
| (10) トリエタノールアミン | 0.3 |
| (11) 1,3-ブチレングリコール | 15.0 |
| (12) 香料 | 0.1 |
| (13) 防腐剤 | 適量 |
| (14) 水 | 残量 |

(注1) 撥水処理剤としてKF-99-P使用

0使用

(注2) 撥水・撥油処理剤としてアサヒガードAG53

(注3) ロハギットSD-15(ローム&ハース社製)

This Page Blank (uspto)